

第27回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時            2000年5月9日（火）10:30～11:10
2. 場 所            委員会会議室
3. 出席者           藤家委員長代理、依田委員、遠藤委員、木元委員  
（事務局等）科学技術庁  
                  原子力局  
                  中澤審議官  
                  原子力調査室 伊藤室長、板倉、小室  
                  核燃料課 村田課長、芝野  
                  通商産業省  
                  資源エネルギー庁  
                  原子力発電安全企画審査課 黒谷統括安全審査官、忠内、牧野  
                  日本原燃株式会社  
                  根岸副社長  
                  再処理部 池田計画・建設グループリーダー  
                  吉鋪専門委員
4. 議 題  
    (1) 四国電力株式会社伊方発電所の原子炉の設置変更（1号及び2号原子炉施設の変更並びに1号、2号及び3号使用済燃料の処分の方法の変更）について（答申）  
    (2) 日本原燃（株）六ヶ所再処理施設の工事進捗状況について  
    (3) その他
5. 配布資料  
    資料1-1 四国電力株式会社伊方発電所の原子炉の設置変更（1号及び2号原子炉施設の変更並びに1号、2号及び3号使用済燃料の処分の方法の変更）について（答申）（案）  
    資料1-2 四国電力株式会社伊方発電所原子炉設置変更（1号及び2号原子炉施設の変更並びに1号、2号及び3号使用済燃料の処分の方法の変更）の概要について  
    資料2-1 日本原燃（株）の六ヶ所再処理工場の工事進捗状況について  
    資料2-2 六ヶ所再処理施設の建設状況について  
    資料3 第26回原子力委員会臨時会議議事録（案）
6. 審議事項

(1) 四国電力株式会社伊方発電所の原子炉の設置変更(1号及び2号原子炉施設の変更並びに1号、2号及び3号使用済燃料の処分の方法の変更)について(答申)

標記の件について、通商産業省より資料1-2に基づき説明があった。これに対し

- ・材料はインコネル690で統一されているのか。  
(通商産業省) 新しい物についてはそうである。
- ・圧力の上蓋取り替え自体は設置変更許可案件になっているのか。また、その判別はどのようにしているのか。  
(通商産業省) 上蓋自体は設置変更許可案件になっていない。また、その判別は安全性についての重要性で決められている。
- ・振止め金具の改善や管支持板枚数の変更等は設計変更か。また、今後このような変更はあるのか。  
(通商産業省) 設計変更である。また、新しい物については既に改良済みである。

等の委員の質疑応答及び意見があった後、平成12年2月17日付け平成11・08・17資第1号をもって諮問のあった標記の件に係る核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第26条第4項において準用する同法第24条第1項第1号、第2号、第3号(経理的基礎に係る部分に限る。)に規定する基準の適用については、妥当なものと認め、通商産業大臣あて答申することと決定した。

注) 本件申請に係る変更は以下のとおり。

- ① 2号炉の原子炉容器上部ふたの取替えに際し、出力分布調整用制御棒クラスタ駆動装置を撤去する。
- ② 2号炉の蒸気発生器を新蒸気発生器に取替え、蒸気発生器の記載項目を変更する。
- ③ 2号炉の原子炉容器上部ふたの取替え並びに2号炉の蒸気発生器の取替えに伴い、1号炉の蒸気発生器保管庫の貯蔵保管能力を変更するとともに1号炉及び2号炉の共用とし、取り外した2号炉の原子炉容器上部ふた等並びに2号炉の蒸気発生器等を蒸気発生器保管庫に貯蔵保管する。
- ④ 1号炉、2号炉及び3号炉の使用済燃料の再処理委託先確認方法を一部変更する。

(2) 日本原燃(株)六ヶ所再処理施設の工事進捗状況について

標記の件について、日本原燃株式会社より、資料2-1及び資料2-2に基づき報告があった。これに対し、

- ・配管等のサポートを建家から取るために張り付けられているように見える埋め込み金具は、見学者には補修の跡と誤解する人もいるので、この金具の役割を見学者にきちんと説明をした方がよい。
- ・資料2-2の2頁の要員の育成に関してどのような構想を持っているか。

(日本原燃株式会社) 社員の育成については、まず、現場で建設を行いながら勉強している。また、核燃料サイクル開発機構の施設や仏国のCOGEMAのUP3にもかなりの人数を派遣している。

・UP3の運転実績はどうか。

(日本原燃株式会社) 小さなトラブルはあるが、順調に操業している。また、UP3は発電所と違い、化学プラントであり、トラブルについては、状況に応じた対応が必要となる。

・モックアップはあるのか。

(日本原燃株式会社) 切断器等はモックアップを作って対応している。これらは主に遠隔保守等の技術開発に重点を置いている。

・訓練センターはあるのか。

(日本原燃株式会社) 我が社ではテクノロジーセンターと呼んでおり、今は座学が主体となっている。

・先般のメーカーの工場出荷段階の不具合はどうして発見できなかったのか。

(日本原燃株式会社) 図面作成の段階で問題があったため、不具合部分の検知が出来なかった。これについては反省しており、再発防止策を採った。

・建設状況は佳境に入ってきているが、原子力委員も興味を持っているのでまた話を聞きたい。

等の委員の意見及び質疑応答があった。

### (3) 議事録の確認

事務局作成の資料3第26回原子力委員会臨時会議議事録(案)が了承された。

なお、事務局より、次回は5月12日(金)に臨時会議を10:30より開催する方向で調整したい旨、発言があった。